

「(財)地域生活研究所あり方検討会」 ～法人化対応について～

★ 「(財)地域生活研究所あり方検討会」を開催しました。

2012年2月17日常任理事会終了後に、研究所の常任理事と東都生協庭野吉也理事長、パルシステム東京佐藤功一専務理事、生活クラブ・東京村上彰一専務理事を交え、「新しい公益法人制度への対応と準備について」を議題に意見交換をしました。

検討会では、一般財団法人への移行をめざして、今年6月を目処に東京都へ申請手続きを行なうこと、また、東京の生協の発展に貢献する調査研究事業を一層充実させるなかで維持会員を拡大し、研究所の財政基盤を確立していくことについて論議され、3月理事会及び評議員会に提案することが確認されました。

★ 「まちづくり研究会 第3回公開研究会」を開催しました。

テーマ： 自治体の防災政策

講師： 鍵屋 一さん（板橋区福祉部長兼危機管理担当部長）

日時： 2月25日（土）15時より

講師の鍵屋一さんからは、防災教育、住宅の耐震化、災害時要援護者支援、災害時のコミュニティ活動とボランティア、これからの防災まちづくり、自治体スクラム支援という6点についてお話がありました。特にコミュニティやボランティア活動の重要性、自助、共助の大切さ、支援・受援の双方から見た自治体スクラムの強化という点を指摘されました。

研究会メンバーだけでなくコープとうきょうや東都生協からの参加もあり、鍵屋さんの指摘を受け熱心な質疑・議論が行われました。



★ 「生協研究会」を開催しました。

テーマ： 生協の未来

講師： 豊田 正弘さん ((株) ダイヤモンド・フリースタール)

日時： 2月27日 (月) 15時より

講師の豊田さんからは流通業界の動向やその中で、生協の持つ強みについて報告がありました。特にグローバル化の進展、顧客最優先のマーケティングなどの流通業界の動向の中で、組合員という「最強の顧客」を組織化していることは、生協の大きな資産であるということが指摘されました。そのような生協の強みをどのように生協の事業や活動に生かしていくのか、研究会メンバーとの意見交換を行いました。

今後の生協研究会メンバーや研究テーマについては、あらためて検討していきます。



★ 「都市農業研究会 公開研究会」を開催しました。

テーマ： 都市農業にとっての学校給食

報告者： 船戸 修一さん (静岡文化技術大学講師)

コメンテーター： 後藤光蔵さん (武蔵大学教授)

日時： 3月5日 (月) 15時30分より

東京都日野市を事例に、「学校給食」から見る都市農業の研究発表。日野市では学校給食への地元産農産物の利用に先進的に取り組んできました。しかし、都市化による農地の減少、出荷作業や多品目栽培の煩雑さによる出荷農家の減少など、様々な課題が存在します。報告ではそれらの課題を日野市内の3つの地区の比較から解き明かしました。それを受け学校給食を通じた市民や地域と農家との関わりの中で都市農業のこれからを議論しました。



*当研究所は、2010年度より法政大学などの若手研究者グループと「『食農連携』による首都圏農業の持続可能性」というテーマで都市農業についての共同研究を実施してきました。今回は、この共同研究の2011年度の活動の成果報告会として開催しました。